



浜田市弥栄町門田地区の現状と課題

清水翔太・猪瀬和希・橘鮎実・豊田茉彩・山下悠矢

〇はじめに

私たちは門田を訪れ、いくつかの家庭から聞き取り調査を行った。この調査のもと、門田の農業、人口、暮らしについて現状と課題について記していく。

〇農業

・現状

門田の人たちの協力的な姿勢と行政からの補助金、特定農業法人「**ビゴル門田**」が門田にとってなくてはならないものである。

・ビゴル門田

門田には、「**ビゴル門田**」という特定農業法人が設立されている。集落人口の減少や高齢化の進行により、個人での農業経営が困難になり、平成11年に法人化され現在に至る。現在この地区では農家24軒の内、1ターンを除くすべての農家がビゴルに所属している。

ビゴルでは、米主体の農業経営を行っていて、JAを通しての販売はしておらず大阪などの都市を中心とする独自の販売ルートで収入を得ている。米にはとてもこだわりがあり、味も安全も保証されたおいしい米を作っている。

門田では、法人化して地区一体になって徹底した農業管理を行っている。**集落美化活動**によって荒れた田畑がない。農業育成や定住を目的に**農業研修生の受け入れ**を行っている。それに加え、**機械組合を組織**して機械操作、管理を担当している。法人化によって、安定した利益を得ていて、ビゴルは今まで赤字経営がない。

ビゴルという法人は農業だけでなく、地域民の繋がりを深める門田の中核的役割を果たしている。

・課題

門田の農業は**若い世代の不足と後継者不足**が課題と思われる。現在、浜田市の金城町から一人高齢の方が手伝いに来ている。このように若くなくても外部からの協力を得ることで今の世代から後継者や次の若い世代に代わるまでの時間が稼げる。定住対策による他地域の若い世代の募集や門田に住んでいる人たちの子供たちが定年後に門田に帰ってきて農業をするのが最も理想的である。

〇人口

現在門田は、世帯数・31、人口・55(男27・女28)という構成である。人口の減少に悩まされており、空き家も多い。

対策として、門田では「**話創哉**」という活動が5年前から行われている。「話創哉」とは、門田離郷者と門田現住者が集まり、門田離郷者の帰郷を呼びかける活動である。活動内容は、現在の門田の人不足の現状を知ってもらうための話し合いを行っている。

また、**1ターン者の受け入れ制度**を行っており、門田現住者たちが、1ターン者へ空き家の貸出を行い、農業の仕方を教え、農業でのやり立ちができることを目標に指導している。

〇暮らし

代表的な門田の伝統料理として、**うずめめし**や**角寿司**などが挙げられる。こういった伝統料理は、主に行事などで振る舞われることが多い。しかし、門田に伝統的な食文化はないと答える家庭もあり、あまり郷土料理として意識されていないという現状もある。

門田の自慢として全ての家庭から出た共通点として、**住民の協調性**が挙げられる。様々な行事が行われている門田であるが、参加意欲はあるものの、老化による行動制限などによって参加する機会が減少しているという家庭も見られた。このような老化による行事不参加なども、人口の減少による少子高齢化の多大な問題といえるだろう。

〇結論

門田の大きな問題として**人口減少、農業の後継者不足**がある。その中で、住民の仲は深まっており、協調性があるなど良い部分もあることは事実だ。しかし、門田を存続させていくためにはこれらの問題を解決していかななくてはならない。解決するためには人口増加が一番だと考えられる。その施策としては、地域住民間での話し合い、地域住民と行政とでの話し合いを多くしていくことである。さらに、門田の大きな特色であるビゴルを全面的にPRしていけば良いのではないだろうか。また、門田の**優良な米のブランドをさらに築いていく**ことも一つの手ではないだろうか。農業での収入が安定して得られれば、都市から第二の人生を過ごすために来る人々もいるだろう。